

竜王町の橋梁長寿命化修繕計画概要

背景・目的

本町が管理する橋梁は、令和2年度現在で127橋架設されています。

このうち、建設後50年を経過する橋梁は、全体の36%を占めており、20年後の令和22年度には、83%に増加します。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大することが懸念されます。

このような背景から、計画的に橋梁の維持管理を行い限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となります。

本町ではコスト削減のために前回の長寿命化修繕計画策定後、従来の“大きな傷みを見つけてから対策を行う”対症療法型から“傷みが大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型への転換を図り、橋梁の寿命を延ばすため順次補修工事を実施しています。これらの補修の結果や経年による劣化の進行は定期点検により随時確認していますが、長寿命化修繕計画に反映する必要があります。

そこで、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画の見直し・更新を実施します。

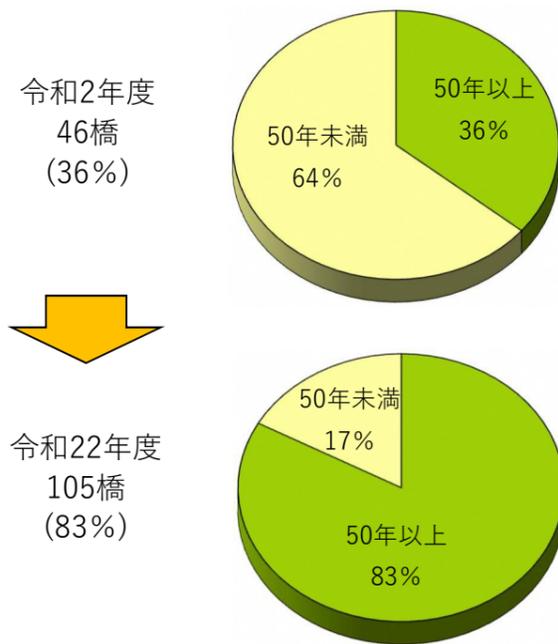


橋の維持管理方針

次のような方法で橋の維持管理を行います。

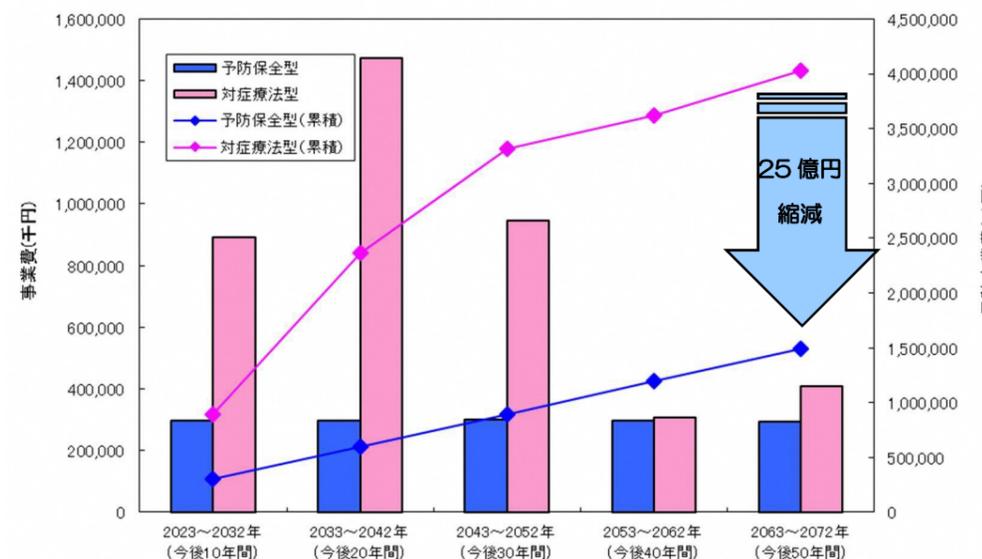
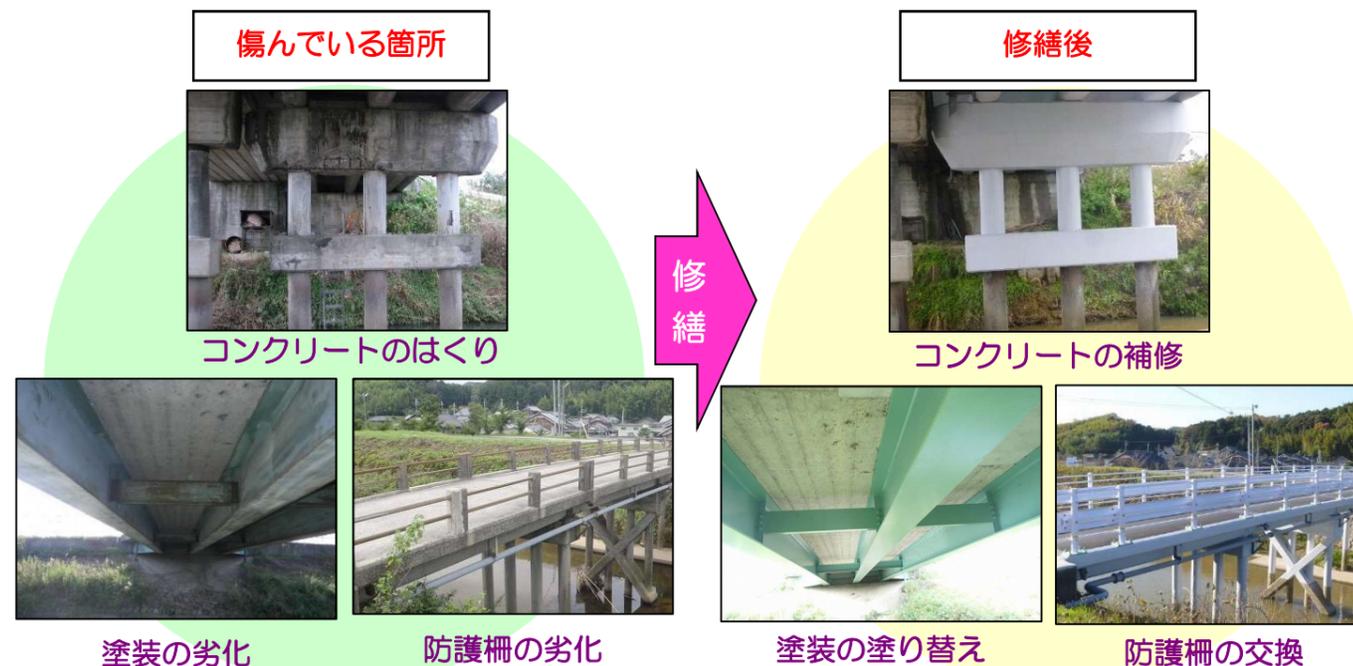
- ・5年に1度程度、定期点検の実施
- ・日常の道路施設パトロールにおける点検

これらの点検を通して、橋の傷みを早期に発見し、その傷みが大きくなる前に対応します。また本計画は、本町の管理している橋全てを対象として修繕計画を策定しています。



修繕計画の内容と効果

策定した計画に基づき傷んだ箇所の補修などを順次実施します。



長寿命化修繕計画を策定する127橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型が40億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が15億円となり、コスト削減効果は25億円となります。また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保されます。

助言を頂いた学識経験者

本計画の策定にあたり、社会基盤構造物の維持管理について研究をされている京都大学大学院工学研究科 服部篤史 特定教授から、貴重なご意見やアドバイスを頂いております。